

1. 子どもの死亡事故の現状

※出典：厚生労働省「人口動態調査」HP

- ①子どもの不慮の事故死は、病気を含む全ての死因の中で上位。
- ②不慮の事故による子ども（0～14歳）の死亡者数は減少傾向にある。

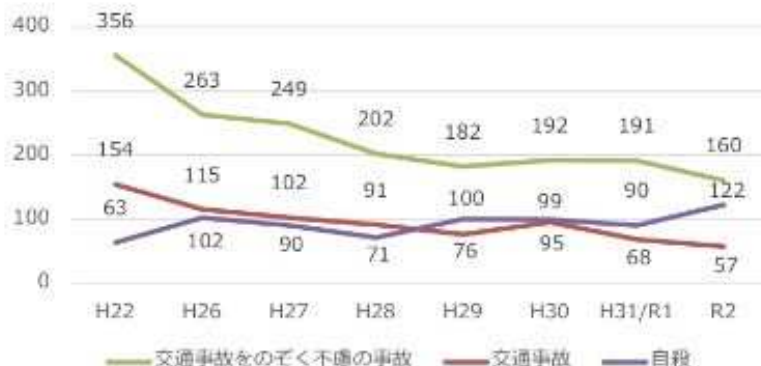
令和2年の死因順位

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	周産期に特異的な呼吸障害等	乳幼児突然死症候群	胎児及び新生児の出血性障害等	不慮の事故
1～4歳	先天奇形、変形及び染色体異常	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	インフルエンザ
5～9歳	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形、変形及び染色体異常	心疾患	インフルエンザ
10～14歳	自殺	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	先天奇形、変形及び染色体異常

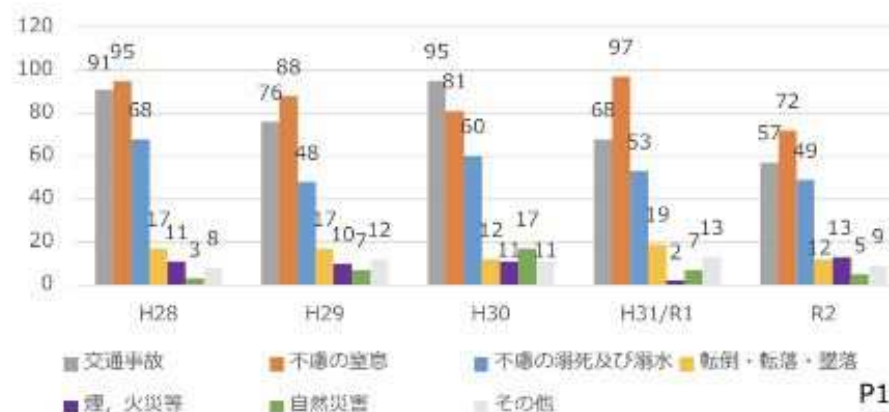
※左図：人口動態調査 上巻 5-17 死因順位別にみた性・年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）及び割合 から

※下図：人口動態調査 下巻 死亡 第1表-1 死亡数、死因（三桁基本分類）・性・年齢（5歳階級）別（ICD-10コード V～Y、U） から

子ども（0～14歳）の不慮の事故等死者数



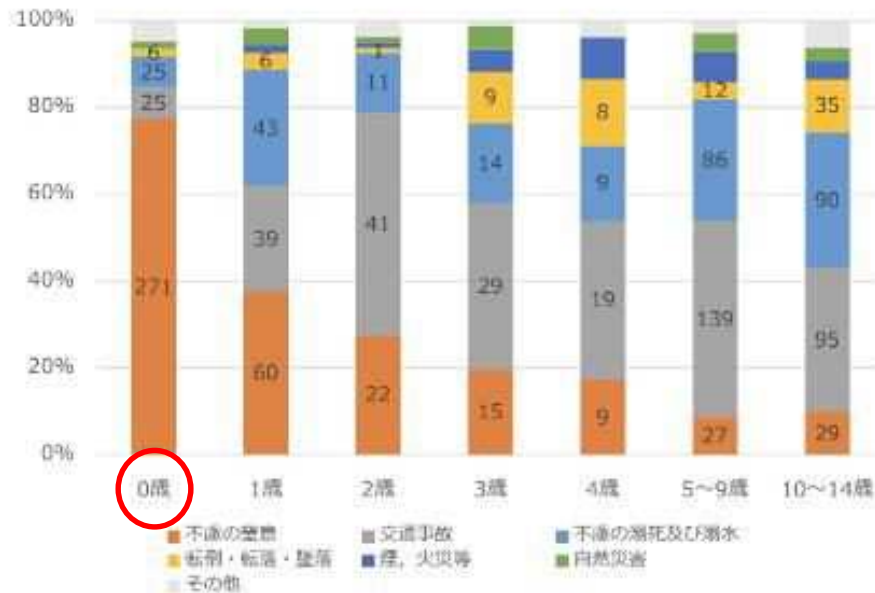
子どもの不慮の事故の死因別死亡者数



3. 年齢別に多い死亡事故の割合

- 平成28年～令和2年の5年間は窒息、交通事故、不慮の溺水が死因の上位。
- ①「窒息」は、0歳で圧倒的に多く発生。（ベッド内での不慮の窒息及び絞首 等）
 - ②「交通事故」は、2歳以上で全て1位。
 - ③「溺水」は、1歳、3歳以上で2位。また、3歳、5歳以上で自然水域での事故が上位。
 - ④「建物からの転落」は、3歳、4歳と10～14歳が多い。

不慮の事故の死因別死亡者数（年齢別比率）
（平成28年～令和2年）



※人口動態調査 下巻 死亡 第1表-1 死亡数、死因（三桁基本分類）・性・年齢（5歳階級）別（ICD-10コードV～Y、U） から

年齢別の詳細順位 1位～5位
（平成28年～令和2年）

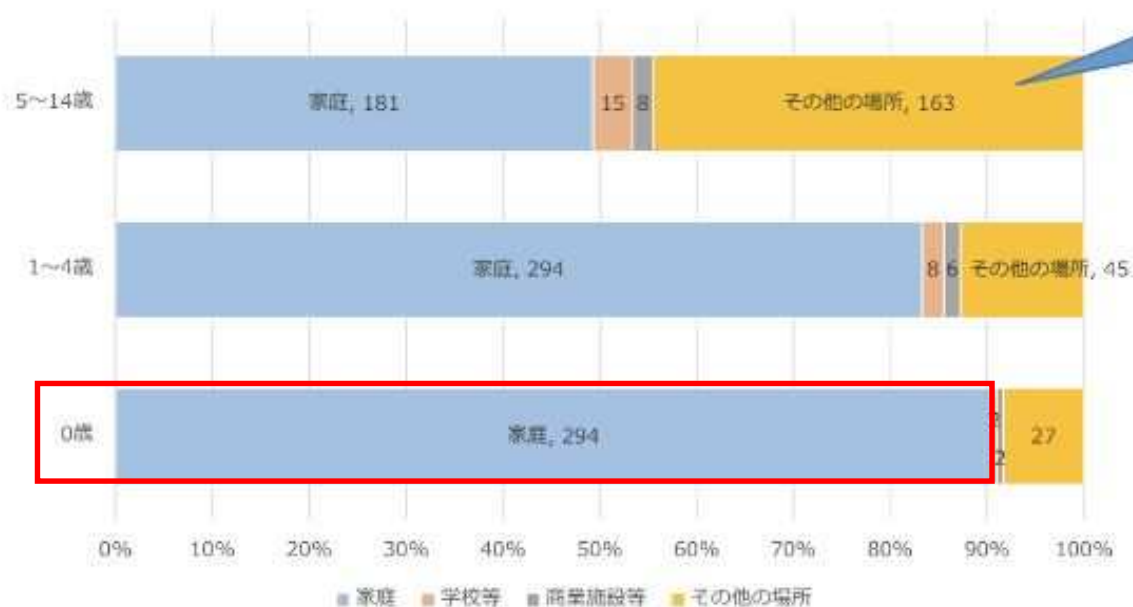
	1位	2位	3位	4位	5位			
0歳	窒息 （ベッド内） 34%	窒息 （食物の誤えん） 21%	交通事故 7%	窒息 （食物の誤えん） 7%	窒息 （詳細不明） 7%			
1歳	交通事故 24%	溺水 （浴槽） 21%	窒息 （食物の誤えん） 12%	窒息 （食物の誤えん） 10%	溺水 （その他） 5%	窒息 （ベッド内） 5%		
2歳	交通事故 51%	窒息 （食物の誤えん） 13%	窒息 （食物の誤えん） 10%	溺水 （浴槽） 8%	溺水 （その他） 6%			
3歳	交通事故 38%	溺水 （自然水域） 8%	転落（建物 又は建築物） 7%	溺水 （浴槽） 5%	溺水 （その他） 5%	窒息 （食物の誤えん） 5%	窒息 （その他の 物中の誤えん） 5%	煙、火災等 5% 自然災害 5%
4歳	交通事故 32%	転落（建物又は 建築物） 10%	煙、火災等 10%	溺水 （浴槽） 8%	溺水 （プール） 8%	窒息 （食物の誤えん） 8%		
5～9歳	交通事故 45%	溺水 （自然水域） 16%	煙、火災等 7%	溺水 （浴槽） 6%	溺水 （その他） 5%			
10～14歳	交通事故 33%	溺水 （浴槽） 15%	溺水（自然 水域） 14%	転落 （建物又は 建築物） 9%	その他 6%			

%は年齢別の不慮の事故死亡件数に対する割合。
%が同じ場合、同率順位の場合あり。

4. 死亡事故発生場所

平成28年～令和2年の5年間では、交通事故をのぞく事故発生場所は、家庭内がほとんどを占め、年齢が上がるにつれその他の場所の割合が増加。

年齢別の事故発生場所（平成28年～令和2年）



163件中、90件が
海・川等自然水域
での溺水事故

※人口動態調査 第9表 交通事故以外の不慮の事故（W00-X59）による死亡数、年齢（特定階級）・外因（三桁基本分類）・発生場所別 から
家庭は居住施設を含む、商業施設等はスポーツ施設等を含む、その他は街路等、工業用地域、農場、詳細不明を含む

SIDS対策
強化月間



睡眠中の 赤ちゃんの死亡を 減らしましょう

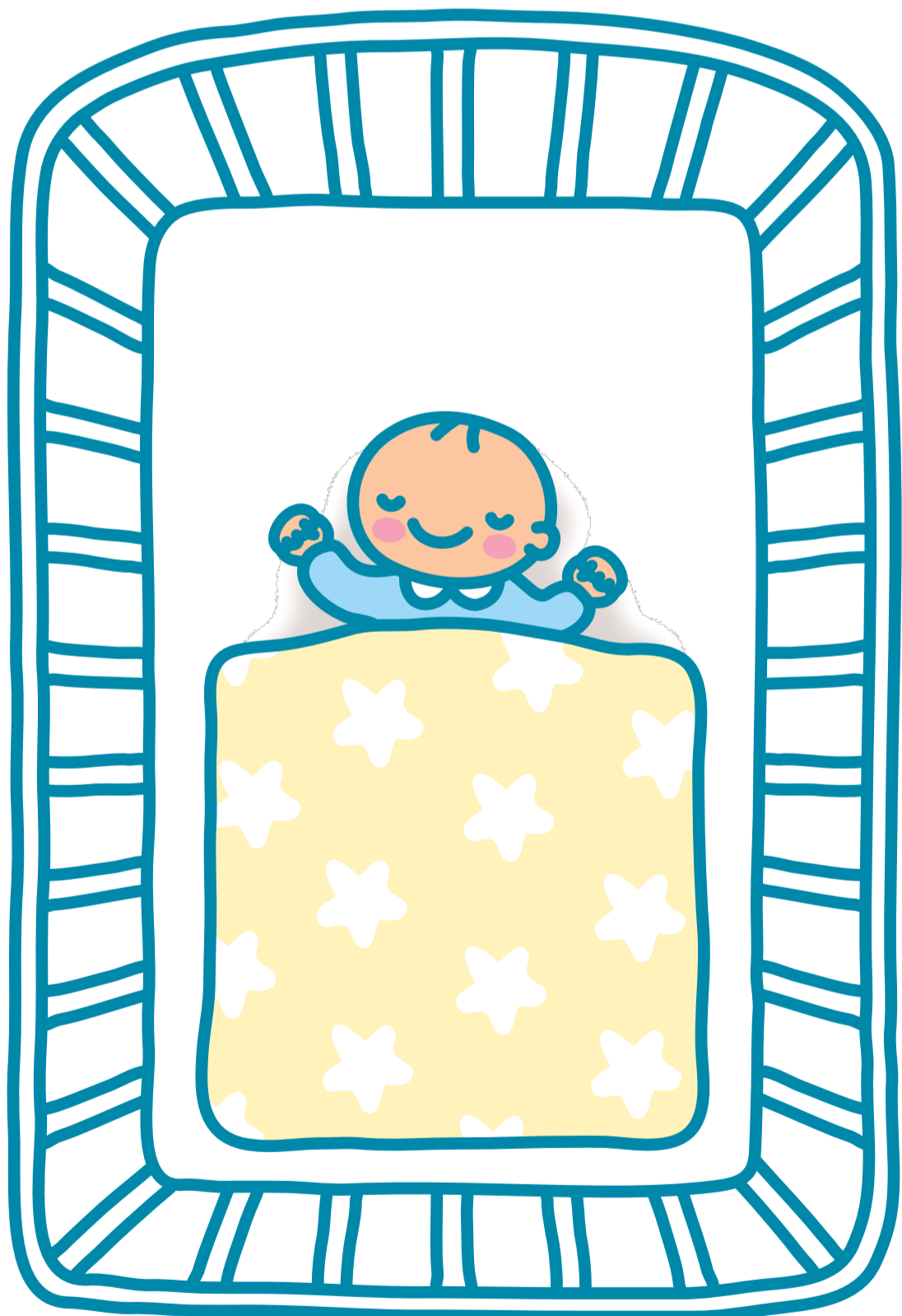
乳幼児突然死症候群

睡眠中に赤ちゃんが死亡する乳幼児突然死症候群 (SIDS: Sudden Infant Death Syndrome) という病気があります。

- SIDSは、何の予兆や既往歴もないまま乳幼児が死に至る原因のわからない病気です。
- 令和3年には81名の乳幼児がSIDSで亡くなり乳児期の死亡原因の第3位です。



乳幼児突然死症候群 (SIDS) について



SIDSの
発症率を低くする
3つのポイント



- 1 1歳になるまでは、寝かせる時はあおむけに寝かせましょう



- 2 できるだけ母乳で育てましょう



- 3 たばこをやめましょう

窒息事故防止のために ☆

睡眠中に赤ちゃんが死亡する原因には、乳幼児突然死症候群 (SIDS) のほか、窒息などによる事故があります。

- ベビーベッドに寝かせ、柵は常に上げておきましょう
- 敷布団・マットレス・枕は固めのものを、掛け布団は軽いものを使いましょう
- 口や鼻を覆ったり、首に巻き付くものは置かないようにしましょう



厚生労働省

